

# 森山未来で映像化 エトガル・ケレットの「外」全文掲載

会員記事

2020年7月23日 14時00分

新型コロナウイルスの感染を防ぐため、皆が家の中に閉じこもる。「ロックダウン」という未知の経験の中で、イスラエルの作家エトガル・ケレットが一つの短編小説を書きました。翻訳全文を掲載します。



「外」を原作にした映像作品「OUTSIDE」に出演する森山未来(C)Noam Levinger

## エトガル・ケレット 「外」

夜間外出禁止令が解除されてから三日経つが、明らかに誰も家から出て来ようとしなかったのであった。よくわからない理由で、一人きりであろうが家族とであろうがみんな家の中に留まりたがったのだが、おそらくはただ単にあらゆる他人から離れていたかったのだろう。かなりの長い時間を家で過ごした後ゆえに、今ではみんなこれに慣れてしまっていた。仕事のために出勤し

ないこと、モールに買い物に行かないこと、カフェで友達と会わないこと、大学時代の元クラスメイトに不意にふわっとした握手をされるなんてことがないことに。

政府は人々が適応するのに数日間の猶予を与えたが、事態の好転が見込めないということが明らかになると、もう選択の余地はなかった。警察や軍隊がドアをノックしては人々に家から出るように命じ始めた。



エトガル・ケレット 1967年 イスラエル 生まれ、テルアビブ在住。邦訳に短編集『突然ノックの音が』やエッセー『あの素晴らしき七年』など。40カ国以上で読まれている

120日間の隔離生活のあとだ…

この記事は  **会員記事** です。無料会員になると月5本までお読みいただけます。

2種類   の会員記事が **月300本まで読める** お得なシンプルコースは [こちら](#)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.